

中学校社会科（地理的分野）教科書における 「観光」に関連する記述内容の分析と考察

澤 達 大

キーワード：観光教育 社会科 地理 教科書分析

I. はじめに ～問題の所在～

2007年の「観光立国推進基本法」の施行や、翌2008年の観光庁の設置などの一連の政策に見られるように、観光立国の実現は、わが国の成長戦略の一つとして位置付けられてきた。

とりわけ2013年は、従前にはないほど「観光業」が注目を集めたと言っても過言ではない。安倍政権による「アベノミクス」の経済成長戦略の一つとして、政府は「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」をとりまとめ、経済再生に向けた施策を行っている。また、2020年の東京オリンピック開催決定により、外国人観光客の誘致に拍車がかかった。日本政府観光局（JNTO）の発表では、2013年の訪日外国人数は10月で累計866万人となり、目標の1000万人の大台に達する見込みである。

観光立国の実現のためには、人材育成が必要であるが、学校教育の場においても、観光教育の整備が進められている。大学では、それまで立教大学と横浜商科大学の2大学であった観光系学部・学科は、1990年代より急速に増加し、現在は全国の大学で新学科設置の動きが加速している。本学でも2013年、総合社会学部に「観光・地域デザインコース」が設立された。学科設立の動きは高等学校でも見られ、2013年現在、23の高校で、総合学科・専門学科に観光が

置かれている。

小・中・高校では、伝統的に修学旅行が各学校で行われており、観光と深いつながりを持っている。また、「総合的な学習」では、修学旅行の事前・事後学習を行う他、学校裁量によりさまざまなプログラムが設定されており、地元の観光資源を題材に学習が進められていることが多い。そのような地域では、生徒が地元を訪れる観光客向けガイドを行うケースも増えてきている。また、TOSS (Teacher's Organization of Skill Sharing) による「観光立国教育」は、小・中学校の観光教育推進団体として有名で、「観光・まちづくり教育全国大会」では各教科での実践報告がされている。

本稿では、中学校段階の社会科・地理的分野（以下、地理）が担う観光教育が重要であるという認識に立ち、教科書分析を行うものである。中学校段階の研究を行う意義は以下の3つである。

まず、観光教育の土台となる基礎知識は地理学習で培われること、そして地理的認識の基盤形成は、中学校社会科によるところが大きいことである。高等学校では1989年の社会科解体以降、世界史必修化や大学受験科目の減少等により、地理履修者が大幅に減少している。そのため、現在の社会科教育で、中学校の地理教育での取り組みは重要性が高いと筆者は考えている。

次に、学習指導要領（平成20年版）により増加した地誌学習を検証することで観光

教育との関連を測る点である。教科書はカラーで写真も多く盛り込まれ、地誌の内容は充実したが、その評価と、観光教育の視点からの分析はまだ行われていない。

さらに、中学校段階では、各校での実践例は数多くあるが、論文研究としての発表本数が非常に少ないことである。これまでの先行研究を見ると、宍戸（2008）や高嶋（2008）による高校におけるカリキュラム比較や実践報告があり、伊藤、金野（1999）、寺本（2012）、佐藤（2012）による小学校における教科書分析や実践報告がある。飯塚（2012）や荒井（2008）は、中学校を中心とした地理教育研究者であるが、イギリス中等教育における地理観光教育の紹介と分析に留まっている。

本稿では、まず学習指導要領の改訂点と「観光」記載内容の詳細を考察する。次に地理的分野を出版している教科書会社4社の「日本の諸地域」記述について観光教育の内容の記載事項を分析し、考察を加えるものとする。

II. 現行学習指導要領と「観光」の記述

1. 地誌学習への回帰

最初に、現行の学習指導要領の変遷について、経緯や内容を簡単に触れておく。

まず、学習指導要領における日本の学習は、「(2) 日本の様々な地域」の章で、次のように構成されている。

- ア 日本の地域構成
- イ 世界と比べた日本の地域的特色
- ウ 日本の諸地域
- エ 身近な地域の調査

以前より地理学習は、諸地域の学習で自然・産業・文化などの項目を羅列的に扱い、地域の事象を詳細に取り上げ、知識・理解を中心に学習を展開してきた。それが暗記科目としてのイメージを生み、生徒にとって苦手な分野となっていた。

前回の改訂（平成10年版）では、その状況からの脱皮を図り、社会の急激な変化に対応できる資質・能力を育成するために、「学び方」や「調べ方」の学習に重点が置かれた。そのため、日本や世界を地誌的には取り扱わず、系統的に日本全体を扱うこととなった。また、「地域の規模に応じた調査」の單元では、調べ方の事例として世界や日本の2～3つの都道府県や国、地域が取り上げられ、教科書では地域調査方法の手本を示していた。しかし周囲からは、この単元の教科書記載内容が従来の地誌と勘違いされ、地誌内容の大幅削減に対して、学力低下を招くという批判が浴びせられたのである。

現行学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視した上で、事象間の関連を追究・説明する学習などを通して、地理的な見方や考え方を一層重視している。最も注目を集めた地誌学習「ウ 日本の諸地域」の單元では、7地方区分の各地域について、地域的特色をとらえ、その地域で最も重要と考えられる事象を「中核」として、「中核」的事象を中心に他の事象と有機的に関連付け、地域の全体像をとらえるとしている。これがいわゆる「動態地誌」的な学習である。従って各地域の地域的特色は多様であるので、「中核」的事象だけでその地域を説明するのではなく、幅広い事象と結びつけることが求められている。

なお、それぞれの地域の「地域的特色をとらえさせる」7つの考察項目は、次のとおりである。

- (ア) 自然環境を中核とした考察
- (イ) 歴史的背景を中核とした考察
- (ウ) 産業を中核とした考察
- (エ) 環境問題や環境保全を中核とした考察
- (オ) 人口や都市・村落を中核とした考察
- (カ) 生活・文化を中核とした考察
- (キ) 他地域との結びつきを中核とした考察

これらを観光の種類に照らし合わせると、

自然観光・歴史観光・近代化遺産観光・環境観光・都市観光・文化観光と、すべてが観光の対象となる項目であることがわかる。

影響を受けながら地域は変容していることなどについて考える。

2. 学習指導要領内の「観光」の記述

学習指導要領解説には、「観光」という語が3ヶ所で使われており、前述の「(2) 日本の様々な地域」の「イ 世界と比べた日本の地域的特色」と「ウ 日本の諸地域」内にある。その内容を次に紹介する。

~~~~~については、例えば、生産地と消費地間の物資の移動、観光地の成立と観光客の移動といった物資や人々の移動の特色、鉄道の開通に伴う通勤圏の変化などの諸事象と関連付けて追究することが考えられる。(以下略) (下線は筆者記載)

### イ 世界と比べた日本の地域的特色

(ウ) 資源・エネルギーと産業  
世界的視野から日本の資源・エネルギーの消費の現状を理解させるとともに、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題を取り上げ、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観させる。

このように、キーワードとして「観光」という語が現れる数は極めて少ない。しかし、日本全体の地域的特色や諸地域の特色を追究する際に、観光業を取りあげることが、学習時の具体的事例として記されている。特に観光を地域の「中核」的事象に結びつけて、地域の特色を捉えることが出来る構成になっているため、教科書における観光に関する記述は多くなっている。

~~~~~については、世界的視野で見ると我が国は先進工業国ととらえられているが、日本全体の視野で見ると、例えば太平洋ベルトには、工業や流通、金融、情報などに関する産業の盛んな地域がみられ、日本海側や北海道などには農業や水産業、地場産業、観光産業の盛んな地域がみられるなど、自然及び社会的条件によって産業の地域的分業が進み、交通機関の発達などによって各産業地域は変容しているといった程度の内容を取り扱うことを意味している。(以下略)

III. 中学校地理教科書における

「観光」に関する記述とその分析

ウ 日本の諸地域

(キ) 他地域との結び付きを中核とした考察
地域の交通・通信網に関する特色ある事象を中核として、それを物資や人々の移動の特色や変化などと関連付け、世界や日本の他の地域との結び付きの

1. 中学校地理教科書の現況

教科書分析にあたり、前提となる教科書現況をみる。中学地理は4社が発行している。以前は6社あったが、大阪書籍が日本文教出版に版權を譲渡し、日本書籍新社が撤退した。なお、「つくる会」系の自由社や扶桑社は、地理教科書を出版していない。

中学地理の教科書は、東京書籍と帝国書院の2社で、8割もの圧倒的なシェアがある(図1)。京都府内の採択状況も、2社で独占していることがわかる(表1)。なお、地図帳も2社であるが、帝国書院が97.3%とほぼ独占している状況である。

帝国書院は改訂前に比べて、採択数を大幅に落とした(2011年度 35.4%)。この要因として考えられるのは、「中核」となるテーマで取り上げる地域について、他社と比べて決定的な差異が見られる点である(表2 太線枠)。

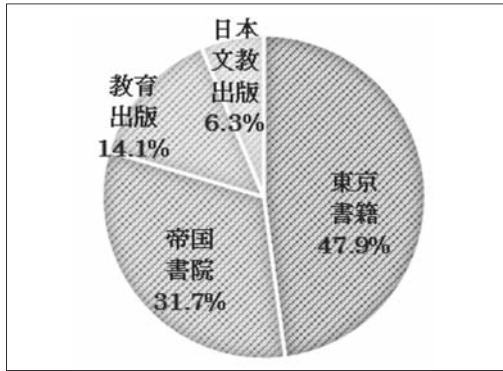


図1 中学校地理の教科書採択状況 (2012年度)

表1 京都府内の市町村別採択状況
(2012～2015年度)

| 社名 | 地区 | 市町村 |
|--------|-----------------------|---|
| 東京書籍 | 山城
南丹
与謝
京丹後 | 宇治市、城陽市、八幡市 等
亀岡市、南丹市、船井郡
宮津市、与謝郡
京丹後市 |
| 帝国書院 | 京都市
乙訓 | 京都市
向日市、長岡京市、乙訓郡 |
| 日本文教出版 | 中丹 | 綾部市、舞鶴市、福知山市 |

表2 教科書会社別「中核」とする視点の
取り扱い地方一覧

| | 東京書籍 | 帝国書院 | 教育出版 | 日本文教出版 |
|-------|-------|-------|-------|--------|
| 自然環境 | 北海道 | 九州 | 北海道 | 北海道 |
| 歴史的背景 | 近畿 | 北海道 | 近畿 | 近畿 |
| 産業 | 中部 | 中部 | 中部 | 中部 |
| 環境 | 九州 | 近畿 | 九州 | 九州 |
| 人口都市 | 中国・四国 | 関東 | 中国・四国 | 中国・四国 |
| 生活文化 | 東北 | 東北 | 東北 | 東北 |
| 結びつき | 関東 | 中国・四国 | 関東 | 関東 |

学習指導要領解説では、この単元の例示として、北海道地方を歴史的背景の面から、中部地方を産業の面から、それぞれ考察した場合を掲載した。しかし、「各学校においてそれぞれの地域について例示と異なる事象や事柄を中核として考察を行うことができるのは、当然」として「中核」テーマと地域の選択は、学校の裁量に委ねられている。

今後は、地方別の「中核」視点の取り扱いテーマを統一化するものと思われる。

2. 分析の内容と方法

分析内容と方法は下記のとおりである。

内容：学習指導要領で「観光」が取り上げられている「(2) 日本の様々な地域 イ 世界と比べた日本の地域的特色 (ウ) 資源・エネルギーと産業」と「ウ 日本の諸地域」に該当するページ、および巻末・巻頭。

方法：観光情報誌の掲載率が高い事象等で観光教育に直接該当する箇所、および新しい旅行への取り組みに関する事項（筆者の選択による抽出）。

表 3-1 中学校地理における観光関係記載内容一覧 (東京書籍 平成25年発行)

| 単元 | 小単元 | 教科書見出し | 内容種別(本文・コラム)と小見出し
文中の観光キーワード | | 写真・図表 |
|-------------------------------|-------------------------------|----------------------|---------------------------------|--|-------------------------------------|
| 世界と比べた日本の地域的特色 | 資源・エネルギーと産業 | 5 日本の商業・サービス業 | コラム | 新しい観光産業をめざす白馬村 | 写真 白馬マイスターの話を書く観光客 |
| | | | keyword | スキー エコツーリズム | |
| 九州地方
環境問題・環境保全に向き合う人々のくらし | 3 多様な環境問題と環境保全の取り組み | 1 九州の生活の舞台 | 本文 | 火山活動にともなう地形
温暖で多雨の気候 | 写真 リゾートホテルのビーチ(恩納村) |
| | | | keyword | 温泉 観光資源 さんごしょう リゾート | |
| | | 本文 | さんごしょうを守る取り組み | 写真 さんごしょうの広がる海(国頭村) | |
| | | keyword | 観光資源 さんごしょう リゾート | | |
| | | コラム | 屋久島のエコツーリズム | 写真 屋久島の縄文すぎ | |
| | | keyword | 世界遺産 自然環境の保全 | | |
| 中国・四国地方
都市と農村の変化と人々のくらし | 4 高齢化が進む農村と町おこし | 2 中国・四国地方の人々の営み | 本文 | 瀬戸内地方に集まる人々 | 写真 瀬の浦 |
| | | | keyword | 尾道 海上交通 港町 | |
| | | コラム | 平和を世界に発信する広島 | 写真 平和記念式典
とうろう流し | |
| | | keyword | 平和記念公園 修学旅行生 | | |
| | | 本文 | さまざまな町おこし | 写真 マンガキャラクターを使った町おこし
棚田を活用した町おこし | |
| keyword | 特産品 地域ブランド 地域活性化 | | | | |
| 5 交通網の発展による地域の変化 | 本文 | 地方をこえたつながり | 図 中国・四国地方の交通網の整備 | | |
| | keyword | 本州四国連絡橋 観光 ストロー現象 | | | |
| 日本の諸地域
歴史の中で形作られてきた人々のくらし | 3 古都の成り立ちと現在 | 2 近畿地方の人々の営み | 本文 | 大都市圏の形成 | 写真 神戸市の中華街 |
| | | | keyword | 異人館 中華街 街並み | |
| | | 本文 | 世界の人々を呼び寄せる観光地 | 写真 平城京宮の大極殿
京都市内のコンビニエンスストア
伊勢神宮 | |
| | | keyword | 京都 世界遺産 文化財 景観条例
海外向け観光ポスター | | |
| | | コラム | 河口にできた山と海の中継点 | 図 国宝・重要文化財指定件数
京都市を訪れる観光客数の変化 | |
| | | keyword | 熊野古道 世界遺産 | | |
| | | 本文 | 私鉄に沿って広がった郊外 | 写真 熊野古道を歩く人々 | |
| | | keyword | 保養・行楽地 有馬 宝塚 ターミナル駅 | | |
| 中部地方
活発な産業を支える人々のくらし | 4 自然環境を生かした各地の農業 | 1 中部地方の生活の舞台 | 本文 | 日本の屋根 三つの気候 | 写真 甲府盆地と赤石山脈 |
| | | | keyword | 日本アルプス 軽井沢 避暑地 別荘地 | |
| | | 本文 | さかんな工業、農業、観光産業
今に残る歴史的町並み | 写真 妻籠宿 | |
| | | keyword | 温泉 伊豆 飛騨 能登 妻籠宿 | | |
| | | 本文 | 盆地と高地の農業 中央高地 | 写真 妻籠宿 | |
| keyword | 都心への近さ 観光農園 | | | | |
| 5 日本の商業・サービス業 | コラム | 新しい観光産業をめざす白馬村 | 写真 白馬マイスターの話を書く観光客 | | |
| | keyword | スキー エコツーリズム | | | |
| 関東地方
さまざまな地域と結びつく人々のくらし | 4 各地との結びつきで成り立つ産業と生活 | 4 各地との結びつきで成り立つ産業と生活 | 本文 | 充実した保養地、行楽地 | 写真 お台場 |
| | | | keyword | ディズニーリゾート お台場 中華街 | |
| | | 本文 | 世界への窓口としての関東地方 | 図 成田国際空港の航空網 | |
| keyword | 成田国際空港 外国人 | | | | |
| 東北地方
伝統的な生活や文化を守り育てる人々のくらし | 3 伝統的な生活や文化を守る | 1 東北地方の生活の舞台 | 本文 | 伝統的な生活と文化 | 写真 仙台七夕まつり 秋田竿燈まつり
青森ねぶた祭 角館の町並み |
| | | | keyword | 祭り 城下町 無形民俗文化財 | |
| | | 本文 | 結びつきによる地域の変化 | 写真 仙台市の町並み | |
| | | keyword | 仙台 七夕祭り 新幹線 | | |
| | | 5 新しい文化の形成と地域の変化 | 本文 | 南北に走る山と山地 | 写真 富良野のラベンダー畑
オホーツクの流氷観光 |
| keyword | 富良野 オホーツク海 国立公園 | | | | |
| 本文 | 自然災害と対策 | | 写真 洞爺湖有珠山ジオパーク | | |
| keyword | ジオパーク 洞爺湖温泉 | | | | |
| 北海道地方
雄大な自然と共に生きる人々のくらし | 3 特色ある自然と人々のくふう | 1 北海道地方の生活の舞台 | 本文 | 北海道の中心都市札幌市
観光産業で活性化する北海道 | 写真 さっぽろ雪まつり
札幌市の中心部 知床 |
| | | | keyword | 新千歳空港 スキー 海外の観光客
世界遺産 観光産業 | |
| | | 本文 | 北海道の中心都市札幌市
観光産業で活性化する北海道 | 図 北海道への月別観光客数と外国人宿泊者数の内訳 | |
| keyword | 新千歳空港 スキー 海外の観光客
世界遺産 観光産業 | | | | |

表3-2 中学校地理における観光関係記載内容一覧

(帝国書院 平成25年発行)

| 単元 | 小単元 | 教科書見出し | 内容種別(本文・コラム)と小見出し
文中の観光キーワード | | 写真・図表 | | | | |
|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|-------------|-------------------|---------------------|--|---|-------------------------------------|
| 日本の諸地域 | 世界と比べた日本の地域的特色 | 資源・エネルギーと産業 | 5 | 日本の商業・サービス業 | 本文 | 拡大するサービス業 | 写真 | 観光客でにぎわう札幌の雪まつり | |
| | | | | | keyword | 観光 伝統文化 | | | |
| | 九州地方
自然環境の視点を
中心として | 九州地方はどのような地方だろうか | 1 | | 本文 | 地図をながめて | 写真 | 観光客でにぎわう万座ビーチ | |
| | | | | | keyword | 南西諸島 | | | |
| | | 火山のめぐみと防災への取り組み | 2 | | | 本文 | 温泉や地熱の利用 | 写真 | 別府温泉の血の池地獄
由布岳を望む湯布院の景観 |
| | | | | | | keyword | 温泉地 アジアからの観光客 | | |
| | | | | | | コラム | 島原の火山災害と復興 | 写真 | 土石流災害にあった家の保存展示 |
| | | 九州地方の都市や工業と自然環境 | 3 | | | 本文 | 港町から発展した福岡 | 写真 | 福岡の中心部
博多駅に置いてある(各国語の)観光パンフレット |
| | | | | | | keyword | 福岡空港 アジアとの航空路線 | | |
| | | 沖縄の自然環境とくらしや産業 | 5 | | | 本文 | 自然環境を生かした産業 | 図 | 沖縄県の観光客数の変化(グラフ) |
| | | | | | | keyword | サンゴ礁 第3次産業 自然環境との共生 | | |
| | | 中国・四国地方
他地域との結びつきの視点を
中心として | 交通網の発達と地域の生活の変化 | 2 | | 本文 | 多くの人を訪れる中心都市広島 | 写真 | 厳島神社 |
| | keyword | | | | | 城下町 原爆ドーム 外国人旅行者 | 図 | 観光地を訪れる人の変化 | |
| | 高速道路で広がる結びつき | | 4 | | | 本文 | 各地から訪れる観光客 | 写真 | 石見銀山周辺の集落 |
| | | | | | | keyword | 出雲大社 高速道路 石見銀山 世界遺産
萩 松江 歴史的町並み | 図 | 島根県を訪れる観光客数の変化
島根県に県外から訪れる観光客の割合 |
| | | | | | | コラム | ようこそわが県へ | 写真 | 山口県のアンテナショップ |
| | 発展学習コラム | | | | | コラム | 国際平和都市 広島 | 写真 | 原爆ドーム
被爆者の体験証言を聞く修学旅行生 |
| | | | | | | keyword | 平和記念資料館 修学旅行誘致 | 図 | 広島市を訪れる外国人観光客 |
| | 近畿地方
環境保全の視点を
中心として | 近畿地方はどのような地方だろうか | 1 | | | | 写真 | 天橋立
那智の滝と青岸渡寺の三重塔 | |
| | | | | | | | 本文 | 古都奈良・京都と町なみの変化
歴史的景観の保全に向けて | 写真 |
| | | 古都奈良・京都と歴史的景観の保全 | 3 | | | keyword | 祇園祭 文化財 外国人観光客
歴史的景観 町家 | 図 | 地方別文化財の数 |
| | | | | | | コラム | 今井町にくらす人の話 | 写真 | 今井町の町並み |
| | | | | | | keyword | 樺原市 歴史的景観 | | |
| | 中部地方
産業の視点を
中心にして | 中部地方はどのような地方だろうか | 1 | | | | 写真 | 多くの観光客が訪れる上高地 | |
| | | | | | | | 本文 | 養蚕から果樹栽培へ | |
| | | 4 | 変化する中央高地の産業 | keyword | 観光農園 | | | | |
| | 北陸の産業と雪とのかかわり | 5 | | | コラム | 雪を利用した観光とその変化 | 写真 | 夏のスキー場を利用した観光施設 | |
| | | | | | keyword | 湯沢 スキー 夏の観光誘致 | 図 | 湯沢町の観光客数 | |
| | 関東地方
人口や都市の視点を
中心として | 発展学習コラム | | | コラム | 世界が注目 AKIHABARA | 写真 | アニメ文化をめぐる外国人ツアー
秋葉原の電気街 | |
| | 東北地方
生活・文化の視点を
中心として | 東北地方はどのような地方だろうか | 1 | | コラム | 東北地方をみる手がかり | 写真 | 多くの観光客を集めるねぶた祭り
こけし制作を体験する中学生
角館の武家屋敷の町なみ | |
| | | | | | keyword | 祭り 工芸品 町並み | | | |
| | | 伝統行事をはぐくんだ東北地方の農業 | 2 | | | 本文 | 人々の生活と稲作 | 写真 | 稲穂をかたどった竿燈「竿燈まつり」 |
| keyword | | | | | | 竿燈 ねぶた 豊作祈願 | 表 | 東北地方の主な祭り | |
| 生活の変化と産業 | | 3 | | | 本文 | 生活の変化と伝統工芸品 | | | |
| | keyword | | | | 工芸品の制作体験 | | | | |
| 人々がくらす町なみとその変化 | 4 | | | 本文 | 今も残る伝統的町なみ | 写真 | 雪が多い黒石の町なみ
観光客に「こみせ」を案内するボラン
ティアの人 | | |
| | | | | keyword | こみせ祭り 観光ボランティア 仙台 | | | | |
| 北海道地方
歴史的背景の視点を
中心にして | 北海道はどのような地方だろうか | 1 | | 本文 | 地図をながめて | | | | |
| | | | | keyword | 有珠山 十勝岳 温泉 | | | | |
| | 外国とのかかわりの歴史によって変化した漁業 | 4 | | | コラム | 観光がさかんな北海道 | 写真 | 新千歳空港の水産加工売場 | |
| | | | | | keyword | 国立公園 田園風景 アジアからの観光客 | | | |
| | 発展学習コラム | | | | コラム | 「野生の楽園」知床の理想と現実 | 写真 | 世界自然遺産に登録された知床
知床の森を散策する観光客 | |
| keyword | | | | | 自然観察 生態系 観光客の急増 | | | | |
| コラム | | | | | 展示のくふうで大人気! 旭山動物園 | 写真 | 旭山動物園のあざらし館 | | |
| | | | | keyword | 動物園 展示方法 | 図 | 旭山動物園を訪れる観光客の推移 | | |

表3-3 中学校地理における観光関係記載内容一覧

(教育出版 平成25年発行)

| 単元 | 小単元 | 教科書見出し | 内容種別(本文・コラム)と小見出し
文中の観光キーワード | | 写真・図表 | | |
|--------------------------------|----------------------|---------------------------|--|--|--|---|--------------------------------|
| 世界の比
べた日本
の地
域的特
色 | 資源・
エネルギーと産
業 | 5 日本の商業・サービス業 | | | | | |
| | ① 日本
の西
南
部 | 西南部の自然環境と暮らし | | | 写真 | 鳥取砂丘 | |
| | | 九州地方 | 1 多様な自然環境に恵まれた地域 | 本文 温暖な気候と台風の到来
keyword 屋久島 世界自然遺産 | 写真 | 屋久島「縄文杉」 | |
| | | | 2 さんご礁の海を守る | 本文 沖繩の歩みと観光産業の発達
keyword 沖繩県の観光と産業
気候 さんご礁 固有の動植物と文化
リゾート開発 エコツーリズム 国立公園 | 写真 | エイサーの踊り | |
| | | 3 火山とともに暮らす | 本文 火山の集中する九州地方
keyword 国立公園 カルデラ 温泉 国際観光地 | 写真 | 湯煙の立ち上る温泉街(別府) | | |
| | | | 中国・四国
地方 | 1 人口分布のかたよる地域
keyword 瀬戸内に集中する都市と人口
港町 城下町 | 写真 | 港町の「軀の浦」
「唐子踊り」のようす(牛窓) | |
| | | 人口や都市・
村落を中心
とした考察 | 2 中国・四国地方の中心
広島
keyword 進む都市化と問題
原爆ドーム 国際平和都市 | | | | |
| | | | 3 人口減少と地域のなやみ | | 写真 | 観光客でにぎわう石見銀山の周辺地区 | |
| | | | 日本の中央部の自然環境と暮らし | | | 写真 | 黒部渓谷 日光 |
| | | ② 日本
の中
央
部 | 近畿地方 | 1 歴史に育まれた地域 | | 写真 | 天橋立 天神崎 |
| | | | | 2 京都の街並みと景観保全 | 本文 条坊制の道路網
keyword 歴史的街並みの変化
条坊制 京町家 景観条例 歴史的風土地区
コラム 世界文化遺産と観光都市
keyword 観光都市 心の故郷 古都京都の文化財 | 写真 | 京都市の街並み |
| | 中部地方 | | 1 産業が活発な地域 | 本文 中部地方の産業
keyword 冷涼な気候 | 写真 | 観光客を運ぶシャトルバス(上高地) | |
| | | | 4 自然環境を生かした産業 | 本文 扇状地と高原の農業
keyword 観光農園 温泉 別荘地 グリーンツーリズム
コラム グリーンツーリズムと地域の活性化
keyword 滞在型余暇活動 ジオパーク | 写真 | 登山者で混雑する富士山山頂 | |
| | | | | | 写真 | 観光ツアーの様子(糸魚川) | |
| | | | | | 図 | 中央高地の主な観光地と観光客数 | |
| | 関東地方 | | 1 日本の中心的地域 | 本文 地域の特徴と地域差
keyword 小笠原諸島 さんご礁 世界遺産 | 写真 | さんご礁の海(小笠原)
那須岳 | |
| | | | 他地域との結
びつきを中心
とした考察 | 5 世界都市 TOKYO
keyword 外国人旅行者 秋葉原 外国語対応 | | | |
| | | | | 発展学習
現代日本の課題を考えよう | 本文 交流による地域づくり
keyword 地域交流 農業体験ツアー オーナー制度 | 写真 | 川場村(群馬県)と世田谷区の交流
「健康村」の拠点施設 |
| | 東北部の自然環境と暮らし | | | 写真 | 鉦路湿原 なまはげ
知床半島 十和田湖 蔵王高原の樹氷
磐梯山 ラベンダー畑(富良野盆地) | | |
| | ③ 日本
の東
北
部 | 1 豊かな文化が育んだ地域 | コラム 東北地方の豊かな文化
keyword ねふた 竿燈 七夕 五穀豊穰 | 写真 | 青森ねふたの様子
秋田竿燈まつりの様子 | | |
| | | | 2 多雪地域の暮らし | 本文 雪の風土
keyword かまくら 横手盆地 | 写真 | かまくら | |
| | | 3 現代に生きる地域文化 | 本文 岩手県食文化
keyword 地域文化の国際化を生かす
郷土食 早池峰神楽 無形文化遺産 | 写真 | 民話の語りを聞く人々
早池峰神楽の海外公演 | | |
| | | | コラム 地域文化と観光
keyword チャグチャグ馬コ 滝沢村 | 図 | 日本の無形文化遺産の分布 | | |
| | | | 写真 | 「チャグチャグ馬コ」の行列 | | | |
| | | 5 変化する農村の風景と暮らし | コラム 一関市と平泉町の景観保全
keyword 農村景観 奥州藤原氏 中尊寺 世界遺産 | 写真 | 中尊寺金色堂の内陣 | | |
| | | | 発展学習
現代日本の課題を考えよう | 本文 世界遺産と街並みを守る
keyword 世界遺産 自然保全 歴史的街並み | 写真 | 白神山地のブナ林の紅葉
紀伊山地の霊場と参詣道
武家屋敷を訪れる観光客
大内宿の宿場町 | |
| | | 北海道地方
自然環境を
中心とした考察 | 2 厳しく長い冬と暮らし | 本文 オホーツク海の流水と人々
keyword 流水観光 | 写真 | 「流水ウォーク」を楽しむ観光客 | |
| | | | | 本文 冬季のイベントによる観光
keyword 火山と温泉
湿地を保全するエコツアー
観光による地域の活性化 | 写真 | 「さっぽろ雪まつり」を楽しむ観光客
「YOSAKOIソーラン」
グリーンツーリズム乳搾り体験
知床五湖の高架木道 | |
| | | | 5 豊かな自然を生かした観光 | keyword 冬季の観光客 スキー ネイチャーツアー
エコツアー グリーンツーリズム 航空便数 | 図 | 道内の月別観光客数 | |
| | コラム 夕張市のこれから | | | | | | |
| | keyword テーマパーク 観光開発 | | | | | | |

表3-4 中学校地理における観光関係記載内容一覧

(日本文教出版 平成25年発行)

| 単元 | 小単元 | 教科書見出し | 内容種別(本文・コラム)と小見出し
文中の観光キーワード | | 写真・図表 | |
|--------------------|---------------------|----------------------------|--|--|---|---|
| | | (巻頭) 地理との出会い | | | 写真 秋吉台 九州国立博物館 おかげ横町(伊勢)
街なみ保存地区(高山) 白神山地 | |
| 世界と比べた日本の地域的特色 | 資源・エネルギーと産業 | 5 日本の第3次産業 | 本文 | 第3次産業の盛んな地域 | | |
| | | | keyword | 沖縄 観光関連産業 | | |
| 日本の諸地域 | 自然環境をテーマに | 日本の地方のようす | | | | 写真 松島 平等院鳳凰堂 |
| | | 北海道地方のようす | 1 北海道地方の姿 | | | 写真 五稜郭 大雪山 釧路湿原 千歳空港 |
| | | | 2 北海道の豊かな自然環境 | 本文 | 北の大地の姿 | 写真 さっぽろ雪まつりのようす 流水と観光船
摩周湖 知床半島 大沼固定公園 |
| | | | | keyword | 火山 湖 世界自然遺産 国立公園 | 地図 北海道の国立公園固定公園の分布 |
| | | | | コラム | 日本で最も美しい村 | |
| | | | keyword | 日本で最も美しい村連合 フランス | 写真 特別天然記念物のタンチョウ(鶴居村) | |
| | | 4 歴史的なあゆみと人口分布 | 本文 | 航空路を使った他地域との結びつき | 写真 函館市・小樽市(運河)・札幌市のようす | |
| | | keyword | 新千歳空港 交通 札幌への一極集中 | | | |
| | | 5 自然環境を生かした暮らしや観光 | 本文 | 自然環境を生かした観光 | 写真 冬の別荘湖のようす(霧天風呂)
釧路湿原でカヌーを楽しむ人々 | |
| | | | keyword | エコツーリズム 農村風景 手作り体験 | | |
| | | | コラム | 自然環境との共生 一世界自然遺産 知床一 | 写真 知床半島でのエコツーリズム | |
| | | | keyword | 知床半島 観光客の増加 環境保護 | 地図 日本の世界自然遺産 | |
| | | | 本文 | 東北地方のようす | 写真 東北三大祭り(ねぶた、竿燈、七夕)
中尊寺金色堂 猪苗代湖と磐梯山 | |
| | | 1 東北地方の姿 | keyword | 文化財 歴史的遺産 | 写真 なまはげ かまくら | |
| | | | 本文 | 東北地方の祭りや年中行事 | 写真 重要無形民俗文化財の指定件数 | |
| | | | keyword | 祭り 年中行事 世界無形文化遺産 | | |
| | | | コラム | 東北地方の文化や風土と文学作品 | 写真 宮沢賢治記念館 観光客に語る遠野の昔話 | |
| | | | keyword | 柳田国男 遠野物語 宮沢賢治 | 写真 武家屋敷地区(角館) 大内宿 | |
| | | 2 伝統的な文化とその変化 | 本文 | 文化や歴史を生かした観光 | 写真 武家屋敷地区(角館) 大内宿 | |
| | | | keyword | 地域の歴史 伝統的街なみ まちおこし運動 | 地図 角館 | |
| | | | コラム | 世界に発信する平泉の文化 | 写真 ボランティア研修の講習会(平泉) | |
| | | | keyword | 平泉 世界遺産 外国人観光客 観光ガイド | | |
| | | | 本文 | 東北地方の祭りや年中行事 | 写真 秩父夜祭 華厳滝 旧富岡製糸場 | |
| | | 3 人口の減少と地域の活性化 | keyword | 東北地方の祭りや年中行事 | 写真 小笠原諸島(鳥島) | |
| | | | 本文 | 東北地方の祭りや年中行事 | 写真 台湾でもベストセラーになった「IQ84」
秋葉原のようす | |
| keyword | 祭り 年中行事 世界無形文化遺産 | | | | | |
| コラム | 東北地方の文化や風土と文学作品 | | 写真 白川郷合掌造 兼六園 本栖湖と富士山
乗鞍スカイライン(乗入規制とシャトルバス) | | | |
| keyword | 柳田国男 遠野物語 宮沢賢治 | | 写真 上高地と穂高連峰
戸隠高原の名産品の戸隠そばの店 | | | |
| 関東地方のようす | 1 関東地方の姿 | 本文 | 中央高地の観光業と農業 | 写真 上高地と穂高連峰
戸隠高原の名産品の戸隠そばの店 | | |
| | 4 自然環境と産業のようす | コラム | 世界に広がる日本の文化 | 写真 岐阜県飛騨地方を訪れた観光客の推移と東海
北陸自動車道の整備との関係 | | |
| | 5 人の動きや文化からみた一極 | 本文 | 交通網による国内との結びつき | 写真 みやげ物店として使われる合掌造
おわら風の盆 | | |
| | | keyword | 交通網の整備 日帰り客の増加 | | | |
| | 6 産業からみた文化と環境保護 | 本文 | 中部地方のくらしのくふう | 写真 合掌造集落 風土にねがず観光業 | | |
| keyword | 合掌造集落 風土にねがず観光業 | | | | | |
| 中部地方のようす | 産業をテーマに | 1 中部地方の姿 | 本文 | 中央高地の観光業と農業 | 写真 観光客でにぎわう清水寺
世界文化遺産に登録されている熊野古道 | |
| | | 3 中央高地・北陸の産業と自然環境 | keyword | 高原 温泉 スキー場 宿泊施設 みやげ物 | 写真 奈良国立博物館(重要文化財) 高野山
興福寺を訪れる観光客 今井町 姫路城
寺や神社の多い京都市の市街地のようす | |
| | | 4 産業から見た結びつき | 本文 | 交通網による国内との結びつき | 写真 世界文化遺産の分布 地方別文化財の数
近畿地方の重要伝統的建造物群保存地区 | |
| | | keyword | 交通網の整備 日帰り客の増加 | 写真 OSAKA 光のルネサンス | | |
| | | 6 産業からみた文化と環境保護 | 本文 | 中部地方のくらしのくふう | 写真 祇園祭 異人館街(神戸)
桜の吉野山 古市古墳群 | |
| | | keyword | 合掌造集落 風土にねがず観光業 | 写真 天橋立 | | |
| | | 1 近畿地方の姿 | 本文 | 歴史の長い近畿地方
奈良・京都の歴史と街なみ
さまざまな歴史都市 | 写真 祇園祭の变化 京都芸術センター | |
| | | 2 近畿地方の歴史的な成り立ち | keyword | 世界文化遺産 国宝・重要文化財 町家
歴史的都市 街なみ保存地区 | | |
| | | 3 関西大都市圏の姿 | コラム | 都市を再発見するまちおこし—大阪市— | | |
| | | keyword | 洋風建築 都市景観 水都大阪 | | | |
| 5 伝統的な文化と現代的な文化 | 本文 | 現代にいぎづく京都の文化
現代的な都市文化 | | | | |
| keyword | 歴史に根ざした文化 貿易都市の文化 | | | | | |
| 6 近畿地方の自然環境と農林業 | コラム | 歴史的都市の景観保全をみる | | | | |
| keyword | 景観政策 伝統的な街なみ 祇園祭 | | | | | |
| 中国・四国地方のようす | 人口をテーマに | 1 中国・四国地方の姿 | 本文 | 都市の分布の原因 | 写真 武家屋敷(松江) 鳥取砂丘 四万十川 | |
| | | 2 人口の集中する地域のようす | keyword | 都市の分布 交通網 寄港地 | 写真 水上交通の寄港地として栄えた瀬の浦の街なみ | |
| | | 3 過疎化の進む地域の努力 | コラム | 原爆ドームと宮島 | 写真 原爆ドーム 厳島神社 | |
| | | keyword | 原爆ドーム 宮島 日本三景 世界遺産 | | | |
| | | 4 自然環境や産業と都市の分布 | コラム | 棚田を守る取り組み | 写真 石見銀山遺跡 | |
| | | keyword | 農業体験 棚田百選 文化的景観 | 写真 檜原の棚田(徳島県) | | |
| 5 九州地方のようす | 環境問題をテーマに | 1 九州地方の姿 | keyword | 地域を活性化する取り組みをみる
アンテナショップ 過疎 温泉 キャンプ場 | 写真 広島市内にあるアンテナショップ | |
| 3 豊かな自然と環境保護 | 本文 | 貴重な自然環境が残る島々
火山の多い九州地方 | 写真 グラバー邸 首里城 別府温泉 | | | |
| keyword | 桜島 カルデラ さんご礁 | 写真 九十九島 屋久島の縄文杉 | | | | |
| keyword | さんご礁からみた環境問題 | 写真 水納島(沖縄県) | | | | |
| keyword | さんご礁 白化現象 | | | | | |
| 5 九州地方の社会のようすと環境問題 | 本文 | 九州地方の人口と結びつき
沖縄の文化や環境問題 | 写真 柳川の川下り | | | |
| keyword | 海洋リゾート エコツーリズム 沖縄文化 | | | | | |

3. 考察と今後の課題

a) 量的側面

全社とも、各地方で満遍なく観光の要素を含んだ記載をしている。

地方別にみると、関東地方の記載内容が少ないことが見受けられる。これは、関東地方の情報が多岐に渡り、文化的な観光資源にまで触れられないことや、産業や政治・経済活動そのものが観光資源となっていることも原因として考えられる。一方で近畿地方については、京都・奈良の記述が充実している。これは、各学校で修学旅行や校外学習で京都・奈良を訪れることを想定しての記述であろう。

図表の量について、各社違いはないが、写真の種類は日本文教出版が82枚と非常に豊富で、他社の2倍以上の枚数となっている。観光の記載が多い教科書の採択率が低いという皮肉な状況である。しかしながら、内容的には、写真と本文の説明に整合性がないケースや、反対に本文に関連する写真の掲載がないケースもある。この点は、実際の授業場面でどう活用するかが問われる。

b) 質的側面

全社で共通して見られる観光に共通したキーワードは、「修学旅行」「ユネスコ世界遺産」「新しい観光形態」である。

「修学旅行」はどの学校でも行われるが、京都・奈良に限らず、広島での平和学習や自然体験、農村体験など、従来の寺社仏閣などの歴史的遺産を巡る旅行からの変化に対応した内容となっている。これは、生徒の身近な学校生活と教科活動が密接になるようにとの配慮で、良い傾向といえる。

2つめの「世界遺産」については、各社とも漏らさず掲載しているが、一方で「盛り込まねばならない」感が随所で見られ、取ってつけたように各地方の記述に見られる。本来は世界遺産の保全を通して世界平和を築くという目的があるはずだが、ツーリズムの側面だけで捉えられていると思わ

れる点は、改善の余地があるであろう。

「新しい旅行形態」については、時代の流れを敏感に掴んでいる内容と評価できる。「グリーンツーリズム」や「エコツーリズム」が取り上げられたことは、従来の余暇の楽しみを目的化した物見遊山のマス・ツーリズムとは違い、移動先での人間として有意義な行動が問われる成熟社会の観光スタイルへの変化を物語っている。また、「まちおこし」に見られる、大資本ではない地域密着型の観光の在り方についても、記載がみられる。体裁としては本文よりもコラムとして扱われていることが多いが、生徒が学習し、自らの観光体験との関連付けができるものと期待される。

c) 今後の課題

今回の分析をとおして、観光を取り扱う教科書の実態を検証できた。その上で課題を2つ提示したい。

まず1つは、教科書の限界と現場の裁量である。教科書は、文科省の検定も経た全国統一の内容であるが、学校の所在する地域は多様で、それぞれに特色を持っている。そのため、学校の所在に合わせた観光教育は、当然ながら必要である。教育界でよく言われる、教科書「を」教えるのではなく教科書「で」教えることの必要性である。

学校周辺の地域の観光資源について、教科書への記載は当然期待できない。足下の観光教育のためには、観光の側面から考えた副読本の作成と活用、あるいは教師による実地調査と教材化が必要になると思われる。

地理学習では「身近な地域の調査」の単元が存在するが、現学習指導要領では授業時数の制約が以前よりも増えた結果、実施校が減少している。学校の裁量によっては、総合的な学習との連携により、地理では行わない場合が多い。このことから、現場で地理を教える者が総合的な学習にも、修学旅行や校外授業などの学校行事にも積極的

に関わることが、観光教育推進のために必要となるであろう。

もう1つは、「インバウンド教育」の充実である。今回の分析では外国人観光客の増加に関する記載や観光まちづくりにより観光客を増加させる方策に関する記載は確認できた。しかし、観光業そのものや、外から観光客がやってくる場合の心配りや態度（ホスピタリティ）に関する記載は皆無であった。今後、「観光立国」を目指す場合、必要となってくる事項であることは指摘しておく。

IV. おわりに

本稿では、教科書分析を中心に、中学校社会科地理での観光教育について検証した。充実が図られている一方で、教科書の限界も指摘し、副読本の必要性を論じた。

観光副読本については、宮崎県が2004年に『宮崎観光副読本～わたしたちができることってなあに』を発売したことを皮切りに、現在多くの地方自治体で同様の本が出版されている。今後は、各地の副読本の分析・研究が必要と考えている。

観光教育は、生徒の興味・関心や学習意欲を促すものである。それは、旅行という行為に含まれる、非日常的な場所・見る物・食べるものなどとの出会いが、連続する娯楽を含んだ内容に刺激されるからである。

しかし、観光業の手法や技能ばかりに力点を置くと、観光教育の基盤が見失われる可能性がある。それを指摘した新聞記事を紹介し、まとめたい。

記者ノート：真の観光教育とは

先日、奈良県の高校生に話を聞いて驚いたことがあった。下校途中、学校からわずか数百メートルの距離にある有名な寺の場所を観光客から聞かれ、答えられなかったという。複数に聞いたところ、国宝が並ぶ

そのお寺を訪れたことがある生徒は一人もいなかった。

「観光教育」という言葉を耳にする。修学旅行のように観光が教育の手段となるケースを指す場合もあるが、観光業で働く人材を育成するための実務教育のことだ。奈良県では、県立高校に「観光ビジネス科」が新設されるなど観光教育の視点は浸透しつつあるものの、まだまだ専門学科の域を出ない。

奈良には年間4000万人近くの観光客が訪れる。ただ、このうち宿泊するのは1割に満たない300万人程度というデータもある。「観光下手」と言われるゆえんだ。宿泊施設が少ないからと指摘される。だが、それだけではないとも思う。自らが住む地域の歴史や文化が説明できないと観光客へのアピールもうまくできないのではないか。

(中略)

真の観光教育とは、足元を見直すことだと思う。住む地域について学べば、その先に「郷土愛」も生まれるはずだ。

(毎日新聞 2012年10月29日 朝刊)

「真の観光教育」実現のためには、地理が果たす役割は大きい。中学校の現場でのさまざまな授業実践を期待したい。

付記

本稿の骨子の一部は、2013年6月に、日本地理教育学会例会（於・東京学芸大学）で口頭発表内容を修正したものである

文献

- 荒井正剛 (2006)：観光を積極的に取り上げるイギリスの地理授業、地理、51(6)、pp. 46-48。
 飯塚耕治 (2012)：イギリス初等・中等地理教育におけるレジャー・観光への発展性について、新地理、60(1)、pp. 62-66。
 伊藤裕康、金野誠志 (1999)：「旅行」を鍵概念にした小学校地理的学習の展開：続「シンガポール引越し物語」（観光編）の実施より、社会認識教育学研究、14、pp. 21-30。
 観光庁 (2009)：観光立国教育について『観光関

- 係人材育成のための産学官連携検討会議』資料、
<http://www.mlit.go.jp/common/000035749.pdf> (2013年11月20日)。
- 佐藤克士 (2012)：小学校社会科における観光に関する学習内容の科学化—日英教科書分析を通じて—、新地理、60(2)、pp. 1-18。
- 穴戸学 (2006)：観光教育の拡大と多様性を考える—観光教育とは何か、地理、51(6)、pp. 28-35。
- 穴戸学 (2008)：高等学校における観光教育カリキュラムの比較分析、観光ホスピタリティ教育、2008-3、pp. 16-33。
- 高嶋竜平 (2006)：旅を通して学んでしまおう—法政女子高等学校「旅する人の観光学」の取り組み、地理、51(6)、pp. 41-45。
- 寺本潔 (2010)：小学校社会科における観光単元の導入に関する一考察、玉川大学教育学部紀要、pp. 27-42。
- 日本政府観光局 (2013)：訪日外客数2013年10月推計値、http://www.jnto.go.jp/jpn/news/data_info_listing/index.html (平成25年11月20日発表)。
- 文部科学省 (2008)：『中学校学習指導要領解説社会編』。日本文教出版。
- 渡辺敦司 (2011)：「特集 2012年度中学校教科書採択状況」、内外教育、6125、pp. 6-8。

ABSTRACT

An Analysis of the Tourism in the Social Studies Textbooks (the field of Geography) in Junior High School

SAWA, Tatsuhiro

Keywords : tourism studies, social studies educations, geographical educations,
analysis of textbook

The purpose of this paper is to invest and show the contents of 'tourism studies' through analysis of the social studies textbooks (the field of geography) at junior high school. In Japan, a new national teaching guideline was revised and new textbooks of geography were published, with the description of regional geographical methods focusing core subjects.

The results showed that new textbooks had many description of tourism studies, and three features, 'linked school trip', 'world (cultural and natural) heritage', 'new form of tourism (ex. Ecotourism, Geo-park)'. This paper also investigates two assignments, necessary of sub textbook about area studies and tourism for each schools, and 'in-bound' tourism studies.